

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	カナダ気候変動開発基金 Canada Climate Change Development Fund
主催	Canada
日時	2004年12月7日(火)18時～20時
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> <li>Manon Boisclair (Canadian International Development Agency; CIDA)</li> <li>Ahsan Uddin Ahmed (Technical Advisor, RVCC Project &amp; Director, BUP Center for Water &amp; Environment)</li> <li>Angie Daze (Program Officer, RVCC Project, CARE)</li> </ul>
傍聴者	約30人(政府関係者、NGO関係者など)
目的	カナダ気候変動開発基金(CCCDF)が行ってきた事業を紹介し、それから得られた教訓と結果を報告する。また発展途上国が気候変動に適応するための努力の結果を共有する。
発表の概要	<p>&lt;カナダ気候変動開発基金についての概要説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CCCDFは気候変動に関するカナダ国際戦略(Canada's International Strategy on Climate Change)の一部として、2000年に5年で1億ドルの予算で設立され、カナダ国際開発庁(CIDA)によって管理されている。持続可能な開発と貧困削減に取り組む一方、気候変動の原因と結果について取り組む。</li> <li>気候変動に関するキャパシティビルディングとして、中国、ナイジェリア、アルゼンチン、チュニジアなどに関わった。排出削減プロジェクトとして内モンゴル、5つのラテンアメリカの都市、南アフリカ、パラグアイ、東チモール、インドネシアなどでも削減プロジェクトに関わった。適応に関してはエルサルバドル、西インド諸島、インドなどでの実績がある。</li> <li>パートナー国のステークホルダーの関与が成功への鍵を握っており、大きな気候変動プロジェクトを実施するには5～8年かかる。また気候変動と発展の間につながりがあると組織的理解が必要である。</li> </ul> <p>&lt;太平洋諸国で行われたCIDAの事業についての紹介&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適応措置を効果的に行うためには国策などに乗せる必要があるが、外部資金や援助も引き続き必要とされる。</li> <li>適応プログラムは政策決定者の意識を高め、また住民に早期に行動を起こすことが出来るようにする。</li> <li>気候変動は環境問題としてだけでなく、経済問題として考える必要がある。</li> </ul> <p>&lt;バングラデシュで行われた脆弱性削減プロジェクトについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動に対する脆弱性削減プロジェクト(Reducing Vulnerability to Climate Change; RVCC)は気候変動への適応を促進するために2002年中旬に始まったパイロットプロジェクトで、CCCDFを通じてCIDAによる資金供与を受けている。</li> <li>バングラデシュ南西地域におけるコミュニティのキャパシティを増加させることを目標としており、気候変動への意識の向上、気候変動に起因する脆弱性の低減、関連した政策に影響を与えることを目的としている。</li> </ul>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現在ある気候変動に起因する脆弱性を是正する実践的ソリューションを試みることによって、技術的実現可能性と社会的受容可能性の評価をすることができる。</li><li>・ 社会の中のあらゆるレベルに対して働きかけることによって、家庭とコミュニティレベルで脆弱性を減少させるための可能な環境政策を生み出すことができるようになる。</li><li>・ 地方の組織と協力して取り組むことによって、キャパシティの発展と持続可能性の点から見るとポジティブな結果をもたらすことになる。</li></ul>
資料	なし

文責：井上 智尊